

令和6年第1回奥出雲町総合教育会議 会議録

日 時 令和6年3月19日（火）
開 会 午後4時00分
閉 会 午後5時03分
場 所 奥出雲町役場仁多庁舎 2階 入札室
出席者 糸原保町長 川本健二教育長 福田充雄教育長職務代理
荒金勇吉教育委員 谷尻圭子教育委員、松崎百合子教育委員
事務局 江角啓総務課長 高尾昭浩教育魅力課長
江角浩司教育魅力課長代理 石原啓子総務課企画員

江角総務課長

※開会宣言

糸原町長

（挨拶）

※小学校再編統合後を見据えた新しい「奥出雲町教育大綱」について最終決定させていただきたい。

<協議・調整事項>

(1)奥出雲町教育振興施策大綱について

※概要説明

資料：奥出雲町教育大綱（案）

糸原町長

・「総戦力のまちづくり」を標榜しており、総戦力での「学校・地域・家庭が結集した奥出雲の教育創生」を目指したいと考える。
・教育大綱の基本的な方針（4つの柱）
1 多様な学びを支える教育基盤の整備
2 ふるさと奥出雲の未来を担う学力・教育力の学力の向上
3 地域や家庭で共に学び支え合う教育の推進
4 人々の多様性を尊重した持続可能な社会の形成

高尾教育魅力
課長

奥出雲町の教育大綱（案）を用いて

I 策定趣旨 II 教育大綱の位置付け III 対象の期間 IV 基本理念 V 基本方針について読み上げて説明。

説明は以上。

糸原町長

ただいま、事務局から説明をさせていただきました。小学校再編で、もちろん施設整備等は当然ではございますが、やはり、幼稚園から小学校へ入学して躊躇がないようにということで、学校再編を見据えた幼小が連携した架け橋プログラムが重要であると考えて、これは記載をさせていただいております。また、同様に、小学校と中学校の連携でございますが、小学校の統合によって仁多地

	<p>域、横田地域共に小学校、中学校が1校ずつとなるということでございますので、小中一貫教育というのも目指していきたいというふうに考えております。</p> <p>これと共に、コミュニティスクールの導入により、学校、地域、家庭が連携した協働体制の構築というのは、目指したいと考えているところであります。このことにつきまして、教育委員の皆様からご意見をいただきたいというふうに考えておりますので、ご説明をさせていただいた中でも結構でございますし、関連したことでも結構でございますので、ご意見をいただけたらと思います。</p>
福田職務代理	<p>文言ですが、基本方針の2番。ふるさと奥出雲の未来を担う学力教育力の向上ですが、ふるさと奥出雲の未来を担うのは、誰なのか。つまり、学力は、人間の力を高めるという意味ですよね。そうした時には、ふるさと奥出雲の未来を担う学力という表現でいいのか。あるいは、ふるさと奥出雲の未来を担う、子ども達の学力という言い方をするのか。ただ、そうした時には、教育力の向上がひつかかる。だから、教育力の向上は、中に含めてしまえばいい話なので、ふるさと奥出雲の未来を担う子供たちの学力の向上みたいな言い方の方がすっきりするかなと思います。</p> <p>教育力の向上は、次の中に、いっぱい入っているので。子ども達の学力を育てるために、以下をやりますということなので。できれば、そう変えた方がいいのかなという僕の意見です。</p>
糸原町長	どうですか。目的としては、教育力の向上が目的ではなくて、子ども達の学力の向上というふうにした方がいいかもしさないです。
福田職務代理	教育力は、手段なので、下の項目の中に、学力の話も入っているので。
高尾課長	おっしゃる通りだと思いました。
糸原町長	私もそうしていただくといいです。
福田職務代理	先に進んでいいですか。1番ですね、多様な学びを支える教育基盤の充実の(3)番の表現が多分、いろいろ難しいと思う。書いてあることが、どれほどの人にこの中身が分かるのか。GIGAスクールとは、要するに、道具をそろえたり、周辺の環境を整えたりという意味。デジタルトランスフォーメーションっていうのは、行きついたところの先にあるものだと僕は思っています。例えば、オンラインでも、面と向かった状態のオンラインもあるだろうし、まったく外にいて、対面してないオンライン、ハイブリット化みたいな言い方をされるけど、そういうものを揃えるということ。それから、デジタルの教科書もね、デジタルの教材をきちんと揃えていくということが多分、もうちょっとそこにある。最終的には、テストもそこでやるんだみたいなね。ペーパーでするのでなくて、テストもそこ

	中でして、要するに先生たちの働き方改革に通じる、省エネ化みたいなものを最終的には作っていくのだということ。そういう意味では、子ども達の力を付けていく手段であり、働き方改革をしていく手段でも多分あるのだろうというふうに思います。
高尾課長	確かに、福田教育委員さんがおっしゃる通りです。国の基本計画を見ますと、当然、GIGAスクールのことも入っていますし、学校の先生のそのことも入っています。幅広いことが入っておりますし、最後のところ私もどう表現を変えていいかっていうのは、なんとも言えないんですけど。国の基本政策の大きな柱、5つの柱の1つにも盛り込んでありますので、これはちょっと欠かすことは出来ないと思って、入れたところでございます。
糸原町長	なにか残さないといけないにしても、わかりやりやすく表現ができないか。確かに、デジタルトランスフォーメーション、国言葉では難しい。言っていることは確かに難しいですが、全部読むと大事なことなので。要は、基盤整備ですよね。
高尾課長	そこの中にやっぱり、DX推進にあたっては、デジタルも活用した問題解決や価値創造ができる人材の育成。だから、その基盤整備によって教育の力を高めるみたいなことです。
福田職務代理	そうそうそう。
糸原町長	ここは結構いろいろあります。AIからなにかみんな入っている。中身が多く、ものすごく分量が入っていますね。
荒金委員	大綱という中でここに表すには、非常に難しいと思います。
高尾課長	県の教育大綱も、2、3行で書いてあるので、あまりこれをざらざら書くのはいけないかななど思っています。
福田職務代理	多分、2行か余計で3行以内で書かないと、大綱にはならない。
糸原町長	極力、端的にわかりやすく、スパッと書いてあるといいのだけれど。分かるように。
福田職務代理	やっぱり、2の(3)。2の(1)と(2)は、この前の表現よりはるかに良くなっていて、よくわかるなと思っています。今日の午前中の教育委員会の中で、お互いの情報をきちんと交換をしながらいかないといけないという。それは多分、教育長、町長さんがおっしゃる小中一貫の部分で、目指すところが一緒なので。それぞれ手

	<p>段は違うかもわからないけど、それぞれのところで問題があれば、それを交換しながら、きちんとした小中の教育をつないでいかないといけないということからいけば、この(2)番の表現も僕はこれでいいかなというふうには思っています。</p> <p>(3)番だけど、「確かな基礎学力」という言葉があるのかなあと思って。確かな学力という言葉はあるけど、基礎学力は確かになんでもなくて、基礎学力なので。ここの場合には「小中学校における確かな学力を育む教育」という言い方がいいかなと思います。</p>
糸原町長	それとも、「確かな」をなくして、基礎学力をと書いてしまう。
福田職務代理	はい。どちらかかな。確かな学力という場合には、基礎学力、当然含まれますので。応用力やいろんなものも全部含んでの確かな学力なのだけど。そのベースにあるのは、あくまでも基礎学力なので、その上に立って、それぞれの力を付けていくということなので、確かな学力という表現がいいかなと思いました。
高尾課長	はい、承知しました。
福田職務代理	そうなると、(4)番がね。半分、また学力のことが出てくる。これは、仕方がないかなと思って。目指す子ども像の3本柱なので。これは、これでいいかな。
高尾課長	これは、ずっと前からの3本柱なので、これをなくすのは、ちょっと。
福田職務代理	この3本柱は、重なるかもわからないけど、再度強調する意味では、あってもいいかなという、若干、問題認識になったもので。言っておいた方がいいかなと。これは、このままでいいかなと思いました。
糸原町長	幼児教育も少しずついれさせてもらっている中で、幼稚園の子どもが少なくなってきているので、私、個人的には、もし、幼稚園も一緒にするんであれば、やっぱり、幼稚教育のところもしっかりまた、保護者の方もいろんな不便がある中ででも、一緒になるメリットが、これから先、出てくるのではないかと、ここは、内容をしっかりして、次に小学校につなげるという意味でも、これはまだ、一緒になるって決まったわけではないけれど、町の考え方としては、もし、将来一緒になるのであれば、より質の高くて、小学校につなげるしっかりしたものをしていくという思いはありますし、少し入れてもらっています。
福田職務代理	これ、非常に大切なこと。やはり、基本、基礎は、幼児教育にありますので。そのところ、心の教育も含めてですね、幼稚教育のところ、やっぱり、しっかり力をいれんと。

糸原町長	幼稚園から小学校で、幼稚園で躓いていたら、小学校もまた躓いたりして。
福田職務代理	そうです、そうです。
糸原町長	働き方改革でいろいろ小学校は大変だというけど、まず、そういったところも、大事なところなので。
川本教育長	校長会でもその話をさせていただきながら。県の教育委員会自体も、やっぱり、どこで躓いたかというのを、躓いたところを発見して対応することに力を入れている。
福田職務代理	そうですね。躓いたままで上に上がると、どこで躓いたかわからないし、なんで躓いたかもわからない。だから、なかなか解決できないということがたくさんあるので。それぞれの教育の段階で、きちんとした情報交流もしていきながら、みんなで育っていくみたいに、町長さんがおっしゃるような形をとらないといけないと思います。
糸原町長	皆さん、ご意見を。谷尻さんいかがですか。
谷尻委員	これでいいかなと思いますけど。ただ、現実はやっぱり、小学校との連携がまだ十分にできていないので、それを強化しないと、スムーズな教育移行というところが心配かなというところがあります。でも、それはこの文書がきちんとつていれば、強化をするということになっていくので、この文書は、そのまま置いてないといけないかなと思います。幼稚園によっては、小学校と連携しているところもあるし、あまり気にしていないところもある。町全体の幼稚園として小学校ときちんと、もう少し深く連携していくということが大事です。地域の力も少し弱って来たりすると、幼稚園からいくらこうやっても、なかなかというところもあって、そこのところのお互いの理解をもうちょっと深めるというような交流が持てればいいのですが。無理やりではないんですけどね。ちょっと高齢化しているところもあったりすると、幼稚園ではこうやりたいと思っていても、高齢化で、その引継ぎがうまくいっていない。あと、5年もありますから。その間の動きがどうかなっていうことになると、ある程度、公民館にお願いするという動きになる気がします。文書としては、幼少連携もありますし。
糸原町長	小学校もめいっぱいとは言いつつも、ちゃんとしておけば、スムーズになる。
福田職務代理	余分な力をいれなくても済むっていうこともあるね。
谷尻委員	そうですね、小学校の現場の先生が、新しくなると、異動がうんぬんかんぬん

	<p>ではないんですけど、まったく新しい先生が来られて、その先生たちとのつながりがなかなか持てない。1学期、2学期ぐらい持てなかつたり。その地域の意味が分からぬ、歴史が分からぬ、田んぼがどこにあるかわからない。そういう流れでは、幼稚園自体はずっとその地域にあるので、いろんな周りの自然の環境なり、いろいろな社会的な設備の動きなりは、みんな分かっているんだけど。小学校の中で先生、担任の動きが変わるたびに、もう1回1から構築という仕掛けが起こつたりすることもあつたりすると。だからやっぱり、小学校との連携をもうちょっと密にしないといけないと思います。</p>
糸原町長	<p>前だったら、小学校の先生も地元の先生がおられたわけですよね。そんなことしなくともいい面もかなりあったでしょう。もう、本当におられんようになってくるとなかなかつなぎは難しいでしょう。</p>
川本教育長	<p>それについては、やはり新しく来られた先生はわからないですので、公民館ですね、そういった地域とのつながりをさらに進めていくことが一番大事なことだと。公民館に行けば、ほとんどのことが分かるという。実際、人も分かる、ものも分かるということが、一番大事なこと。</p>
糸原町長	<p>そのような場を持ったり、この子はこうだからとかいう個別の話。子どもが少なくなるから、余計でもできるようなところもあると思いますので。</p>
川本教育長	<p>特には、幼稚園から小学校に進むところですね。ここにも掲げていますけど、幼小連携の架け橋、教育プログラム、結局、スマーズに幼稚園の方から小学校に入っていくという。そして、こういうような子どもさんに育ってほしいというのをお互いに目標として見つけて、それを連携してやっていくということで、スマーズにいく。この分ができるれば、かなりの部分がいいのではないかというふうに、今現在考えている。今、学校ともいろいろ話をし始めていますので。</p>
福田職務代理	<p>さつき、谷尻さんが言った部分、3の(7)、これもふるさと学習ですが。このところは、大人版なんです。こういう大人版のふるさと学習が、力がついてくれば、例えば、地域の公民館に登録しておいて、この方は、「これに来てもらえばわかる」みたいな情報を公民館から出せるようね。システムをやっぱり、片方では作っていかないといけんかなと思います。昔、社会教育で、人材登録というのが非常に流行った時期があって、一時期だけど。それが、多分今、公民館にきちんとあるところと、ないところがある。それを、もう1回整理しなおして、公民館に行けば、みんな分かるというように。そこら辺のところを、今、小さな拠点でいろんなことをやっているので、そこと連携をして、学校支援に回れるようなシステムを作っていかないといけないなと思います。</p>

川本教育長	それは、まさに、3の(3)に返ってくる。
福田職務代理	そうそう、3の(3)も含めてね。町長さんもおっしゃる、いわゆる、総力戦ですね。1つの手段として、なにがいるのかということを、細かく詰めていきながら。
糸原町長	私もそう思っています。毎年、三沢の要害山の祭りの際には、三沢小学校の子どもさんらは、鎧を着て登っていましたけど。あのような行事も、知らない子が町内にはいっぱいいるわけですよ。三沢の子だけではなくても、別に三成の子がいても、鎧着て登ればいいわけで。地元で鎧をもうちょっと作ってもらってもいいかもしれない。本当は、こうした行事は、三沢の子だけではなくて、他地域の子も、うちの子だみたいな感じでやってもらうとこれからはいいではないかと。
谷尻委員	もうちょっと、みんなおいでっていう感じで。
川本教育長	統合後のふるさと教育の中身は、やっぱり、そんな感じに行くと思います。今、横田地域も、いろんなことをやっているのをリストアップして、それで組み立てていて、さっき言った、仁多で言えば、三沢だけのじゃなくて、もうちょっと広い範囲に、いろんな活動に公民館も入ってするという計画をしております。
福田職務代理	それは、三沢の人が一番喜びますね。賑やかにやってくれれば。統合して、ある学年なり、例えば、5年、6年のあれだけの人数が上がってくれば、それは賑やかで、保存会としてもそれは力になります。
糸原町長	私がまた、申し訳ないですけど。高校と、専修学校も入れさせていただいて、いるのですけども、だんだん、横田高校も少なくなってきて。中学校が、横田中学校が1クラスになっています。今年の卒業生から1クラスです。そうすると、かなりの割合が、横中からだいぶん入ってくれていたのですけど、絶対数が少なくなってくると、今度は、横高が非常に苦戦すると思うんです。だから、町外からもですけど、町内の子も極力、中高連携をしていただいて、仁多中学校からもやっぱり入ってもらえるような学校であってほしいなと思います。これも中高一貫で、仁多中学校入ったら、横高に入りたくなるような。
谷尻委員	どこの高校も今、生徒数が減って、確保が大変になってきている。
糸原町長	それこそ、ホッケーをイオンでされて、出雲の小学生たちが体験を。ホッケーってこんなのっていう。あれもなかなか、よかつたらしいという噂を聞きました。出前講座じゃないけど、あんなことでもしてもいいんじゃないかなと。寮もあるし。
糸原町長	結構町外からも入ってきて。横高の寮がいっぱいになってきて、今後どうしようかという話も出てきています。

	最近、津和野と、邑南。新聞でも寮の話が出ていましたが、津和野がなにか、寄付したって。何億だか、寄付だったと思います。三刀屋高校も寮を。
松崎委員	大東高校です。もう今年の出願者が横田と同じく下回って、いよいよ地域の人々が危機感を持ち出して、近くの古民家を改修して、都会の子に魅力的に映るように、古民家を寮にするっていうことが今、出ているそうです。
糸原町長	<p>もし、入りたいっていう子どもがいたら、寮ももう少しそういった話もあるかもしれない。対外的には、地元は無くさないんだというアピールはできる。中高のところもしっかりとやっていただくと、非常にいいかなと思っています。</p> <p>専修学校は、今、作業療法が、入学生が減ってきていて、今年も出願者が、13人とか14人とか、30人定員で。理学療法は人数が確保できています。あれだけ、若い学生がいることは、地域にとって非常にいいことなので。あそこも何とかしないといけないので、そこらあたりも書きました。デザイン学校が、これはまた、最後のところの多文化共生に繋がるとこもあるかもしれないけれど、外国人学生が入ってきます。</p>
川本教育長	1学期から2コース、定員が30名ずつで。2年かけて。
糸原町長	来年は30人を目指しているということで。来年は、それでも30人~40人入ると思いますね。ほとんどが、外国人学生。
糸原町長	おそらく、30人、40人、また、そういう学生が増える、いいことではある。
福田職務代理	受け入れ態勢をしっかりしないといけない。
谷尻委員	次に續くようにしていかないと。やっぱり受け入れ態勢が。
糸原町長	今年、卒業生を3人送り出して、今度、30人くらい入ってくると、すごい変化になってくるので。
川本教育長	今、1年生が7人でしたっけ。
糸原町長	1年生が7人ですね。この間の卒業式、3人でしたから。ITのデザイン科。
荒金委員	ちょうど、海外の人の話が出てきて、この教育大綱どうのこうのという話じゃないんですけど。それこそ、若手の世代の人たちが、町の中に行く場所がない。これ、高校生もしかりなんだけども、この話をすると、僕はすぐに図書館を出してきて、周りからおんなじ話って言われているけど、やっぱり、町として、受け皿

	<p>を挙えておく。今、町内の企業に若い技能訓練生の人が結構の人数がおられて、自転車に乗って、横田の町まで出て、蔵市行って農協行って、うちもきてもらつていて。うろうろ、うろうろしている。悪くないですけど、どこかちゃんと居てもいい場所、高校生が居てもいい場所、今のデザイン学校の学生さん達が、授業以外の時アルバイトされたりするかもしれないけど、どこかちゃんと居ていい場所みたいな場所が町の中にあると、よそから人が来る。誘い水にもなる。この町でちょっと暮らしでもいいわ、高校に行ってもいいわみたいな。そういう仕掛けがやっぱり必要だと思います。別に図書館に限ったわけではないですが、そんなものがぜひぜひ、いろんな形の地域の学力向上に結び付けるような、なにかっていうのが欲しいなというのはつくづく思っています。</p>
糸原町長	<p>三成の方だと思うのですけども、本当、今、横田の町づくりとか、三成の町づくりとかでも、やっていただいているのですけども。そういう感じで、本当に、学校にちょっとかかるので、お金は多分この2、3年苦しいところなんんですけど。でも、これからそういうところも作っていかないと。今あるものを改修でもいいので、図書館については、今後、考えてもいいところだと思います。学生が寄ったり、若い人が寄ったり、行くところがないですよね。そういうところが作れたらしいかなと思います。</p>
福田職務代理	<p>なにか学校跡地があればな。横田は跡地にはならない。</p>
松崎委員	<p>さっきも話したのですけど、実際に、横田中学生と、横田高校生、横田出身の横田高校生が、家以外に勉強する場所がないっていうのが。家で勉強できない、家庭学習しない、だから、学力の定着がなかなか向上しないっていう悪循環があって。もちろん、意欲があって勉強ができる子は、家でもどこでも勉強できるんですけど、環境ってすごく大事だなと思っていますので。学生に限らずに、大人も、学生も。</p>
糸原町長	<p>大人の人も学習する場所が欲しいですね。</p>
松崎委員	<p>先ほど、公民館の話出していましたけど、公民館主体で、子ども向けのイベントとかがすごくやってくださるのですけど、ものすごい負担をかけているんだろうなと思っています。今後は、ふるさと教育で、やってあげるじゃなくて、子どもも主体的に参加して、地域の人たちとみんなでやっていくのが、本来の姿だろうと思っていて。そういう活動ができる場としても、やっぱり、コミュニティスペースはぜひ必要です。</p>
糸原町長	<p>必要だと思いますね。そういうった場所は、作って行くべきだと思いますし、やりたいって思っています。やっぱり、それも大事だと思います。雨の日だろうと</p>

	いるところがある。例えば、横田コミセンに行っても、子どもは Wi-Fi があるから、現実にあそこでゲームやっている。あれを見ると、気のどくだなって思っています。
川本教育長	過去に、伝産会館で高校生が帰りに勉強する場を提供したことがあったような気がします。
荒金委員	受験前の時に、過去、ありましたね。
谷尻委員	オープンにしてね。受験勉強の場所を提供しますよっていう。
福田職務代理	場所としてはいいよね。下町のところでね。
糸原町長	伝産会館だからそろばんの展示物なんかもあるけれど、例えば、ああいうところで広いスペースあればいいですけど。
福田職務代理	カルプラの図書室のあの向こう側に、机のところに学生がいる。
松崎委員	テスト期間中は埋まりますよ、あそこの机。
谷尻委員	カルプラなど 1 部屋、図書室に入る右側の農事研修室、あそこなど開放して欲しい感じもします。
松崎委員	足りないと思いますね、テスト期間中は。
谷尻委員	ある程度は、開放の日があっても。公民館、カルプラもそうだけど開放の日が。
糸原町長	三成の駅のところでも、観光協会があそこにあるよりも良いかもしれませんね。
糸原町長	あそことか、いい感じですよね。机があって、Wi-Fi でもあつたら。
荒金委員	管理の問題も出てくるので、常駐で人がいる場所の中で、その一角だつたりすると良い。空いているからだけではなかなか、現実は難しい。いい使い方をしてもらわないといけない。
糸原町長	仁多地域の空いているところ。仁多土木事業所の 1 階が空いている。あそこには、守衛さんがいつも 1 人おられる。あそこも空いていますね。
福田職務代理	それ以外のところで、大きなお金がかかるけど、学校跡地をどう使うかという

	ことも合わせて考えていかないといけない。
谷尻委員	ちょっと、話が違いますけど、今年もあちこち、卒業式に行かせていただいたのですが、この学校がもうすぐ終わるんだな、閉めるんだなと思った時に、ここに残っているこの150年の歴史や、また、学校の中でどうしても残しておかなければならぬ物は、どこに行ってしまうのだろうと思いました。教室や職員室や、廊下の方を見ながら、きよろきよろしながら思ったのですが、統合にはなるのだけども、三沢小学校の大事なこんなもの、布勢小学校の大事なこんなもの、阿井小学校のこんな大事なものを、その地域に残していくのか。まとめてどこかにきちんと保管をすべき場所がいるのではないかと、つくづく思いました。
福田職務代理	私は、原則、やっぱり地域に残してやらないといけないと思う。学校の跡地に展示場かなんかを作つてもね。必要な物は、地域伝承をしてからといけない。みんなどこか一か所に集めても、それは埋もれてしまうので。それについては、やっぱり地域の人間が責任を持って管理をしていくようなシステムを作らないといけない。
糸原町長	町のこういう知的な財産みたいなもの、基本的に教育財産というのは、分散してどこかに入っていますよね。
高尾課長	教材備品は、使えるので、どこかまとめておいて。例えば、故障したりとかしたら使うということはありますし、また、地域の方が寄贈されたものが各学校にたくさんありますし、それは台帳を作つて、島上小学校は、台帳を作つてですね、卒業記念で作ったものとかは、一か所に集められないので、その地域で活用していただくとか、その学校をそのまま再利用するにあつても、そこに残しておいた方がいいんじゃないかという議論にはなっています。分け方が二通りあると。
糸原町長	だから学校も、信奉的なものとかは地域に残っている。昔の統合した時なども、中学校を統合した時は、やっぱり地域に残っているんですか。
福田職務代理	いや、仁多中学校は、仁多中学校にあります。
荒金委員	横田中学校も、今、会議室ですが、元校長室にあります。元の小学校も。
福田職務代理	これだというものは全部見えるような状態で。例えば、校旗であつたり、文集の最後のものであつたりみたいなものは、全部残してあります。
福田職務代理	全部、箱の中に入っている。そこらへんで、地域へ残さないといけないものと、集めないといけないものを、取捨選択していく。

谷尻委員	島上が、1つ勉強になるかもしれませんですね。
高尾課長	結構、その年々の卒業記念という、私も島上小学校に、顔の焼き物がまだ掲げてありますけど。そういうのは、やっぱり集められないので、最終的にはその島上小学校を解体しなかったらそのまま残るでしょうし、やむを得ず、将来、解体しないといけない場合は、その同窓生とか地域で考えるしかないのかなと思っています。
糸原町長	そのほかにございますか。よろしいですか。 大綱は、ご指摘いただいた部分とかを、もう1度整理してもらって、いいですかね。また、難しいところは、デジタルトランスフォーメーションとかはまた、ご意見を伺うなどして確認をさせていただきます。
福田職務代理	もし、文言で気になるところがあれば、今週中のところで、高尾さんに連絡してもらって、今週いっぱいで締め切ってしまわないと、なかなか出来ないです。
糸原町長	大まかにというか、基本的には、これでいいということにさせてもらい、後は、文言の修正などご指摘いただいたものは、事務局で直して、最終確認いたします。
高尾課長	最終的には、先ほどの字句のですね、2項目の未来を担う子供たちの学力向上というところと、その段の(3)の小中学校における確かな基礎をとて、確かな学力の向上という、その字句は訂正させていただいて、デジタルトランスフォーメーションのところにつきましては、ちょっと、福田委員さんのご意見をいただいたりとかして、その他字句の調整があれば、言っていただきたいです。 最終的には、「教育大綱」は、町長が定めるということになっておりますので、ご意見を踏まえて、それを町長の方にあげて、最終的には町長のご判断をいただいて、「教育大綱」という形でさせていただければと思いますので、よろしくお願いします。
(全員から同意あり)	
糸原町長	それでは、これで閉めさせていただきます。しっかりとご意見を踏まえて、新しい教育の指針となる奥出雲町教育大綱を改訂したいと思います。それでは、本日は、ご多忙なところ、ご意見をいただきまして、ありがとうございました。 これを持って、総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。(※閉会宣言)

会議録署名

糸原町長

糸原保

川本教育長

川本健二